

平成27年度 第4回 鳥取市総合企画委員会議事概要

- 1 日 時 平成27年9月29日（火）14：00～16：00
- 2 場 所 鳥取市役所 本庁舎6階 全員協議会室
- 3 出席委員 上山弘子委員、岡本洋一委員、尾崎直美委員、小野澤弘成委員、小谷文夫委員、下山裕子委員、白岡あゆみ委員、棚田厚委員、茶谷友士委員、塚田比佳里委員、松本壽恵委員、森原昌人委員、安田晴雄委員長、山根滋子委員
- 4 欠席委員 岡田一壽委員、谷上雄亮委員、谷口節次委員、富岡庄一委員、西村賀代委員、橋本勝信委員、松本弥生委員、森英俊委員
- 5 鳥取市 市長、副市長ほか関係部（局）長（監）、政策企画課創生戦略室（事務局）

6 開 会（太田政策企画課長）

ただいまから平成27年度第4回になります鳥取総合企画委員会を開会いたします。

本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。鳥取市総合企画委員会条例第6条第2項によりまして、委員会は委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができないと規定されております。本日、今のところ22名中13名の委員さんが出席していただいておりますので、今回の会議は成立しているということを御報告いたします。

そうしますと、開会に当たりまして、まず、深澤市長より挨拶申し上げます。

7 市長あいさつ（深澤市長）

それでは、一言御挨拶を申し上げます。きょうは大変お忙しい中、本年度第4回となります鳥取市総合企画委員会に御出席いただきまして、まことにありがとうございます。

さて、人口ビジョン、総合戦略、これは今、全国の自治体で一生懸命策定しておるところでございますが、本市におきましては本年4月に骨子案を、また、8月に素案をお示しいたしまして、大変多くの皆様からさまざまな御意見をいただいたところでございます。また、9月1日から開会いたしました市議会におきましてもさまざまな御議論をいただいておりますし、多くのいろんな御意見、御提言をいただいております。また、市民政策コメント、パブリックコメントを行いまして、こちらのほうにもさまざまな御意見をいただ

いておるところでございます。また、先月末には、鳥取商工会議所様から提言書という形で、いろんな御意見、御提言をいただいたところでございます。大変多くの皆様にこの総合戦略、人口ビジョンについて関心を持っていただいております、我々も大変ありがたく思っておるところでございます。

本委員会を初めといたしまして、さまざまな多くの皆様からの御意見を限りなく参考にさせていただき、できる限り反映させていただきまして、このたび人口ビジョンと総合戦略の最終案を作成させていただいたところでございます。本日の会議で御審議をいただきまして、この9月末をもって一応策定という形にさせていただければと考えておるところでございます。また、来年度からは、第10次総合計画がスタートすることになっておりますが、この総合計画との整合も図りながら、人口ビジョン、総合戦略に沿ったいろんな取り組みをこれから多くの皆様と連携をさせていただきながら展開していきたいと思っております。それによりまして、本市のいろんな課題、問題等がありますが、これらにしっかり力強く取り組んでまいりたいと思っておるところでございます。

本日は第10次総合計画の体系案につきましても、改めて御説明を申し上げたいと思っておるところでございます。どうか忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます。簡単でございますが、開会に当たりましての御挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくようお願い申し上げます。

8 委員長あいさつ（安田委員長）

皆様、御苦労さまでございます。

ちょうど1年前ぐらいになるのでしょうか。26年10月21日に第1回を開催させていただきました。年度末までで2回、委員会を開かせていただきました。今年度に入ってから、今日は4回目ということで、冒頭に市長のほうからほぼ概略も説明があったと思います。今日は皆様方と6回にわたって審議をした項目の最終チェックという意味合いもございますので、皆様方の御意見を十分拝聴したいと思います。

ちょっとまた変わった観点から、二、三日前ですけれども、中小企業庁から本年度のいわゆる賃上げ等に関する人事調査がございました。その中で、67.7%の中小企業が何らかの形で賃上げをなさったようでございます。いわゆる賃上げと申し上げましても、もちろんボーナス、それから初任給もございまして、それから純然たる賃上げ等、それからベア等々ございますが、7割弱の企業がやっておられると。通常ですと、私の感覚から申

上げますと、賃上げというのは、前年の景気がいい、また今年度もいいよということを勘案して賃上げするというのが従来の私たちの企業人としての考え方であったわけでありますがけれども、ことしはちょっと様相が違って、景気の話は2番目に来ておりました。1番目に雇用の囲い込みのために賃上げをするというのがございました。

逆に考えてみますと、世の中は今、大変労働力不足なのだということがうかがえるわけございまして、もちろん本市におきましても、若年層の方々の流出をとめるということが大変難しくなってきたわけございまして、そのあたりも踏まえて、人口ビジョン並びに総合戦略等々のまとめをきょうさせていただきたいと思っております。皆様方の何分の御協力をお願いいたしまして、御挨拶にかえさせていただきます。ありがとうございました。

9 議 事

○事務局（太田政策企画課長）

ありがとうございました。そうしますと、ただいまから議事のほうに入ります。

鳥取市総合企画委員会条例第4条第2項の規定によりまして、議長は委員長が務めることとなっております。これ以降の議事の進行は安田委員長さん、お願いいたします。

（1）協議事項

- ①鳥取市人口ビジョン及び創生総合戦略（案）について
- ②第10次鳥取市総合計画の体系（案）について
- ③第10次鳥取市総合計画等策定スケジュール（案）について

○安田委員長

それでは、議事に入らせていただきます。

鳥取市人口ビジョン及び創生総合戦略（案）についてということでございます。資料ナンバー1、資料ナンバー2、参考資料1ということで3つにわたっております。前回、8月28日に総合企画委員会での意見をお伺いいたしました。それから以降、商工会議所の提言書でありますとか、8月25日から9月14日実施の市民政策コメント等を受けまして、修正した点等がございます。それを中心に事務局より御説明をいただけたらと思います。よろしく申し上げます。

○事務局説明（塩谷創生戦略室長）

資料1、2に基づき説明（略）

○安田委員長

本日の委員会で人口ビジョン、総合戦略の各案の取りまとめが上がっておりますので、これを完成版としたいなと思っているわけですがけれども、この点に関しまして御質問、また御意見がございましたら御意見をいただきたいと思っております。

今回は、10次総の説明がございましてから、また、お一人様方に御提案をいただきたいと思っておりますけれども、人口ビジョンと総合戦略に関しては私たち5回ですか、十分審議をさせていただきましたので、それ以降に商工会議所、それから市民のコメントがございました。それも踏まえた状態での最終版という形でございますので、いかがでしょうか。

○森原委員

2点ほど質問と意見です。

まず、人口ビジョンにつきまして、前回の委員会で合計特殊出生率の目標値が高過ぎるのではないかという指摘をさせていただきました。数字はちょっと横に置いておきまして、問題はこの目標に近づけるための施策が十分なのかどうかという点だと思います。総合戦略でいろいろと結婚・子育て支援、若者の雇用、給料の面も含めて多彩な戦略が盛り込まれていますがけれども、ちょっと私も判断しにくくて、この2.07、もう少し前は1.8に向けて、この支援策で十分なのかどうか。きょうは市長も来られていますので、見解をお聞きしたいと思います。

もう一つは、前の委員会の後にいろいろとこの人口ビジョンを詳しく見てみたのですが、旧鳥取市と国府町以外の旧町村が人口が激減しているという実態があるわけで、人口ビジョンは合併した鳥取市全体の目標なのですからけれども、やはり旧町村ごとの人口が減少している原因をしっかりと分析した上で、中心部と中山間地域とは分けて人口の目標なりその施策が必要ではないかなと思っております。たしか市の面積の8割が中山間地域で、人口も多分半数近くあると思うのですが、このままでは多分、周辺の町村の人口がどんどん減って、東部での一極集中という形になりはしないかと懸念しています。やはりバランスある鳥取市をつくるためには中山間地対策、人口対策に力点を置いた施策が必要ということで、ここにも中山間地対策はありますけれども、これで十分なのかどうか。僕は不十

分だと思っていますけれども、そのあたりの見解なり今後の方針をお聞きできたらと思います。

○安田委員長

ありがとうございます。どうでしょう、もう市長になると最後になりますので、その緩衝材といったところで、室長からちょっと。

○事務局（塩谷創生戦略室長）

人口ビジョンで合計特殊出生率2.07の目標に対する施策がここに上げてあるもので十分かというのが、まず第1点の御質問でございました。ここに上げてあるのは重点施策ということで、これ以外にもさまざまな施策は鳥取市でやっているのですが、まずはここにある重点施策を、KPIを上げておりますが、こちらのほうを達成いたしまして、その基本目標に向かっていきたいというところがございます。これで十分かと言われると、ちょっと十分ですと言っていいのかどうか分からないのですけれども、基本目標に向けてはここにある重点施策を進めていくというところがございます。

もう1点、旧町村ごとの中山間地の対策に力点を置いた施策をもっとやっていったほうがいいのではないかとこのところでは、中山間地の施策につきましては、最後の住みよいまちづくりの中で魅力ある中山間地域の振興ということで3点ほど上げておりますが、先ほど申し上げたように、ここに上げてある3点というのは重点的にということで、これ以外にも中山間の地域振興というのは進めているところがございます。新市域の振興ビジョンというのも昨年つくりまして、中山間地・新市域の振興というのも進めていきたいとは考えております。

○安田委員長

市長、補足はいかがでしょうか。

○深澤市長

2点大きく御指摘、御提言いただいたように思います。この目標人口が、少し施策が十分ではないのではないかとこの趣旨の御質問、御提言をいただきました。少し、社人研、国のほうの推計よりも高い目標を掲げておりますが、そういった少し高い目標値ではありますが、この2.07という数値に至るいろんなプロセスはあると思います。

今、掲げております総合戦略、いろんな施策、また、あるいは10次総のほうでもう少し具体的などいいますか、網羅的なものを掲げて、これもPDCAということで、策定しっ放しではなくて進捗管理をずっと続けていくわけでありまして。まさにこのPDCAとい

うことで、プラン・ドゥーを行ってチェックをして、またアクションということでありまして、こういった検証を常にやり続けるということ、十分でないところは今後もそれはチェックをしていくということでありまして、これは完成形ということ、今月末で一応策定ということでさせていただきたいと思っております。この目標値が適正妥当なものかチェックし続けていく必要がありますし、また、施策につきましても、いろんな施策をこれからも展開していく必要があると思っております。できる限り2.07が達成できるように、いろんな施策を展開していきたいと思っております。

また、旧国府町以外、新市域合併地域につきましては人口減少が著しいといった状況がありますが、市全体だけではなくて、やはり旧市域、新市域もあわせて、なぜ減少しているのかといった要因分析もしっかり行った上で対策を講じていかないといけないと思っております。この鳥取市は平成16年11月に合併をいたしまして非常に広大な市域を有するまちになったわけですが、面積の約9割が中山間地域だということになりますし、そのエリアに人口の約半数の方が居住しておられるということでもありますので、この中山間地域の振興なくして鳥取市の振興、発展はあり得ないと考えております。

先ほども室長が少し触れましたが、幾つかの具体的な施策を上げさせていただいております。この中で、中山間地域のリーダーの育成、人材育成ということで、ふるさと元気塾、これはほかの自治体では余り見られないような鳥取市独自の取り組みであると考えておりまして、こういった取り組みもしております。現在、リーダーが養成されまして、それぞれいろんな中山間地域の特性や資源を生かした取り組みが、今、まさに始められようとしておるところであります。これからも活性化方針、これを毎年度見直しをして非常に力を入れている分野であります。

それから人口減少、地場産業の衰退等の問題、課題もあるわけですが、この人口動態等を見ますと、中心市街地等も同様な現象があると考えておりまして、人口減少、少子高齢化、これは中山間地域だけではなくて市街地も同じような現象がありますので、あわせて取り組んでいきたいと思っております。いずれにいたしましてもこの中山間地域、面積で9割に相当するエリアということでもありますので、これからはしっかり力を入れていきたいと考えておるところでございます。

○安田委員長

ありがとうございました。森原さん、いかがでしょうか。一応、原案でよろしいでしょうか。

○森原委員

はい、結構です。

○安田委員長

いかがでしょうか、そのほか。

○小野澤委員

失礼します。それぞれのK P Iの設定状況、ちょっと意味がよくわからないのですが、5カ年累計というのであればわかるのですが、そのほか5カ年累計で書いていないところがありますよね、これは……。

○安田委員長

具体的にはどこですか。

○小野澤委員

例えば、9ページにしましょうか。9ページの下から2つ、創業で500件、5カ年の累計というのはわかりますが、例えばその下、新規就農者、平成26年度に9人新規就農者がいらっしゃるということだと思のですが、K P Iの新規就農者15人というのはいつ時点を目標にしておられるのですか、翌年なのか5年後なのか。5年後だったら、31年度です。31年度で15人ということにするのだったら6人では全く意味がないような気がするのですが、それぞれはみんな5カ年の累計と書いてあったりですね……。それぞれ全部が書いてある。どこを目標にしたK P Iなのかというのはちょっとわからないのかなど。それによっては少ない係数だったりという把握もしているのですが。多分、5カ年の間で内訳では多分毎年つくっておられると思うのです、2年目、3年目、4年目、どこまでというの。その辺の把握がどうなのでしょうね。

○安田委員長

室長、これどうですか。新たな数字を入れてもらってもいいけれども。

○事務局（塩谷創生戦略室長）

戦略の5ページの下のところK P Iの説明の中で、5年後に到達すべき指標ということで、累計と書いていないものは5年後に……。それ以外のものは累計という形で載せて。

○安田委員長

はい、5ページに書いてありましたね。K P I、重要業績評価指標という形で載っておりますが、5年後に到達する指標を示していますと、基本的には。

○小野澤委員

例えば同じ9ページのジビエ、私は本当に関心があるのですが、26年度で700頭とったのが5年後に800頭をとるといふ。だから最終年度で800頭。100頭を最終年度でふやすと。30頭ずつくらいふやすようなイメージという。26年度単年度で700頭ですよ、これは例えば。1年から700頭とれているのを31年には800頭とると、年間800頭。

○安田委員長

よろしいですか。

○小野澤委員

内容はわかりましたけれども。

○安田委員長

よろしいですか。

○小野澤委員

では、すみませんもう1点だけ。新規就農者の件はどうなのですかね。5年後に15人は何か少くないですかね。

○安田委員長

単年度でそうすると3人か。

○小野澤委員

2人ずつぐらいのイメージです、年間で。

○安田委員長

どうですか。

○事務局（塩谷創生戦略室長）

新規就農者については、最終年度15です。単年度で15人ということ。

○小野澤委員

途中はどうであっても最終年度で15人つくると。内容、理解しました。

○安田委員長

いかがでしょうか、よろしいでしょうか。

それでは、ひとまず原案どおりという形で御承認いただけますでしょうか。

御意見がないということで、御承認という形にさせていただきます。ありがとうございました。

それでは、続きまして、第10次鳥取市総合計画の体系（案）についてということで、資料は3でございます。事務局より説明してください。

○事務局説明（塩谷創生戦略室長）

資料3に基づき説明（略）

○安田委員長

ありがとうございました。

くくりとしてはちょっとぼかしたような状態の表現になっているわけですね。室長のほうから説明がございましたので、これから皆様方にまた御意見を伺いたいと思っております。総合戦略に盛り込まれていない施策等とか、それから総合計画に位置づける施策等についての御意見がありましたらと思います。

よろしくお願ひしたいと思ひます。

○棚田委員

発言させていただきます。

このたびも第10次のほうが動くということで、1、2回は出ていなかったことになるのでしょうかね、4月からの参加になるのです。ですので、この体系図のところから参加できるということで、興味を持って聞かせていただきました。中で思ったことを話させていただきます。

いつも評価していくことの立場で考えると、誰がどういったことをして、どういったことになったらこうで、こうではなかったらこうなのだというふうな。さっきのKPIの基準のつくり方にしても、こういうことをしたからこの数字が現実的な数字なのだというのが、ここに参加している委員の皆さんも何かぼんやりと、何でこの数字になったのかというのがわかっていないところがあるのではないかと思います。

といいますのが、この総合企画委員会の一番の目的は、自分は何をするのだというところではないかなと思っています。誰がしてこうなって、だめだったから、では、こういうことを直していきましょうとか。では、ここに参加している委員の皆さんはどういったことを期待されているか。ただ意見を言うだけで言いつ放しになって、それで終わってはなにかというところは、反省点でもあると思っています。例えば1つ挙げてみても、ここにスポーツ・レクリエーション振興とか、教育の充実・郷土愛の醸成、生涯学習の推進。で

は、私たち委員はどういうふうにかかわっているのだと。例えば、会を提案してくださる、事務局の方、部なのか課なのか係なのか、会に私たちは参加するだけでいいのか。それともファシリテーターとしての参加を求められるのか。そういった積極的なかかわりが見えるような動きが出てくると、ああ、そうか、私たちがやっていることは、今、ここにかかわっていることなのだというのが明確になってくるのではないかと思います。

今後、また第10次でも目標数値をつくる中で、単純に新規就農者が15人という5年後の目標があったのですが、その15人をつくるために、では、私たちは何をするのか、何課が何をするのか、何部が何をするのか。結局、ふえていなかったら修正しなければいけないわけですね。そこが明確になってくると、この会もすごく生きたものになってくるのではないかと考えております。

全体にかかわることではぼんやりとした意見になってしまいましたが、発言を終わります。

○安田委員長

ありがとうございます。全くおっしゃるとおりだと思います。私たちが、鳥取市が何をしてくれるかと言って、いつも受け身でおるわけですが、私たちが鳥取市に対して何ができるのかという問いかけだと思っております。

室長、よろしいですか、今の点に関して。基本的なお考えなので、よろしいでしょうか。

○事務局（塩谷創生戦略室長）

はい、よろしいです。

○安田委員長

それでは、白岡さん。よろしく申し上げます。

○白岡委員

失礼します。前回の会議からきょうまでの間で、暮らしの中で感じたことですが。台風が幾つも近づいて東北のほうでもものすごく大きな水害があったりしたときに、それから東京都で防災冊子みたいなものが全世帯に配られたというニュースを見たりして、鳥取は自然災害が少ないというのが特徴なので安心はしているものの、いざ何かあったときに自分はどのようなふう動けばいいのかみたいなことを具体的に家族で話をしたときに、この地域のハザードマップはあるのかという話になって。それをもらっていないね、どこかに行けばもらえるのかなという話をしたり。あとお盆ごろに町内で防災訓練があったのですが、設定は地震があって火事があったらどう逃げるといった話はあるのですが、水害とか土砂崩れ

とかそういうことの設定は特にされていなくて。ひょっとしたら市とかではなくてもうちよっと小さな単位で取り組むべきことなので、ここで発言してどうなるということではないのかもしれませんが、一市民が何かあったときにどう動けばいいかというシミュレーションができていないという、自分自身が反省を感じまして。安心・安全なまちという項目で地域防災力の向上というのもあると思うのですが、ハザードマップを各地域でつくって、この地域はどういう危険が潜んでいるかという何かあったときにどう動くかというシミュレーションは必要かなと感じたので発言させていただきました。

○安田委員長

ありがとうございました。

○深澤市長

まさに御指摘いただいたとおりでございまして、それぞれの地域で防災マップと言っておりますが、作成していただいております。その前に、町内会単位で、ちょっと正確な数字は覚えていませんが、八百数十だったかな、自主防災会を結成していただいております、これは鳥取市の特徴ある取り組みの一つではないかと思えます。この組織率が大体90%台になっています。究極は100%そういう組織を地元でつくっていただきまして、それぞれの地域のいろんな特性があります、土砂災害の危険があるところ、水害が心配される場所、いろんなところがあります。避難経路等々もそれぞれ地域ごとに異なりますので、そういったものを防災リーダーを中心として作成をしていただいておりますという実態がございまして、その節には危機管理課のほうに防災コーディネーターがおりますので、御一報をいただければ出向かせていただいで、一緒に取り組みをさせていただくということを進めておるところでございまして。リーダーとなっていただく方も、先般も修了式がありました、いろんな研修を受講していただいで、その後には地域でリーダーとして地域防災力の向上に御尽力をいただくといった取り組みを今、進めておりますので、これからはいろんな形でこの地域防災力の向上を図っていきたく思います。その要となつていただきますのがこの自主防災会の皆様、それから地域の消防団の皆様でありますので、これからはさらなる地域防災力の向上を図っていきたく思いますので、よろしくお願ひいたします。

○安田委員長

ありがとうございます。白岡さん、要は防災マップ、どこにあるのかということ。

○白岡委員

そういうこともですが、個人におりてきていないという。町内会の人にはわかっている、きっとハザードマップは頭に入っていて、こういう避難計画でというのがわかっているし、しゃっても、個人個人、家にいる主婦が実際自分のうちに何かあったときにどう動けばいいかというのを、そのときにわかっているというのがあるなという実感があったのです。多分、町内ごとできっと取り組み方が違って、きっと個人個人が把握している町内もあると思いますが、そうでない自治単位もあるというのはあります。

○安田委員長

各町内の中に防災に関するそういう専門、委員の方々がいらっしゃるのですよね、例えば僕らの町内もそうなのですが。その人たちが年間に2回、例えば消防訓練をすとか避難訓練をすということ、実を言うと町内の中でやっているのですよね。だから河原のまちの中の一部でやっておられないところがあるということなのでしょうね。

○白岡委員

そうです。

○安田委員長

どんどん町内の方々に声をかけて、やりませんかということでやっていただいたらいかがでしょうか。

○白岡委員

わかりました。

○安田委員長

それでは、次は下山さんですね。

○下山委員

失礼します。先ほどの2人の方の話聞いて思ったことを発言させていただきます。

私が大学で東北の大震災のゼミに入っていて、鳥取市のことについても話したのですが、鳥取市でも防災マップを配って、何カ月後にその防災マップを持っている人と持っていない人の数を調べたら、捨ててしまったという人が多かったという話を先生から聞きました。その話を聞いて住民である人たちも、もし何かがあったら市が動いてくれるから、行政がやってくれるからといって、受け身の形で過ごしているのだなというのをすごく思っています。自分たちが払った税金を使って市をよくしていると、住民がもっと市の政治に興味を持って参加していけるような鳥取市になったらいいなと思っています。

実際に、私も鳥取市でもし地震があったり被害があったら、多分、大学に逃げればいい

のだろうなというのはわかるのですが、そこからどうしたらいいのかというのが全くわからない状態で。本当に誰に聞けばいいのだろうというのもありますし、何かあったときのために大学でも防災訓練をしたらどうですかと先生に言ったのですがまだ返事がないのです。

○安田委員長

怠慢ではないですか、それは大学の。基本のキだと思いますが。自分たちで声を出してどんどんアプローチをかけてください。

○下山委員

はい。

○安田委員長

よろしく申し上げます、小谷さん。

○小谷委員

10次総のほうの真ん中あたり、地域資源を生かしたまちづくりの滞在型観光の推進というのがあって、これが総合戦略のところで交流人口の拡大というところにつながっているのですが、これは国が観光地域経済調査というのをやって、その中の調査の結果で、宿泊業というのは地元調達率が5割を超えると。材料とかサービスとか、それから農林水産、そういったもので地域経済への貢献が非常に高いという全国調査のデータが得られております。したがって、ここの滞在型観光を推進するということはそれだけ時間を過ごすので、地元に着るお金も多くなるので、この滞在型観光の推進というのは総合戦略の中で地域経済の再生と産業の底上げというところに直接リンクするのではないのかなと思います。

それから総合戦略の中で、DMOの推進、DESTINATION・MANAGEMENT・AND・MARKETING・ORGANIZATIONという新しい欧米式の観光地経営の、これは国が大体そういうふうにかじを切っているのですが、今、私が感じているところでやはり観光のプロフェッショナルというのはほとんどいないので、やはりここも人材育成というのが非常に決定的に重要になるなど。例えば、短期的にはどこかの全国的に活躍している旅行会社などからの派遣受け入れとかそんなものでも短期的にはいいのですけれども、長期的には、要するに血を入れていって新しいMANAGEMENT・AND・MARKETをしていかないと、観光地として勝ち残れないのではないかと思うので、滞在型観光の推進というのは、交流人口の拡大は表はそうなのですが、実はバックで動かしている要素が非常に強いので、ぜひ、そのところもリンクは張っていただきたいと思っております。

○安田委員長

ありがとうございました。具体的に室長、いかがですか。

○事務局（塩谷創生戦略室長）

検討させていただきます。

○安田委員長

よろしいですか。経済観光部長がいらっしゃるけれども、どうぞ。

○大田経済観光部長

今言われたみたいに滞在型観光ということは、観光産業というのはいろいろ宿泊だけではない、土産物や交通全てにかかわることですし、これからこれを進めることによって、時間を使っていただくことになるとお金は落ちてくると。それによって地域経済の活性化もということで、今、鳥取市でもこれから時間を延ばすための着地型観光とか、小谷さんが言われたようなDMOの推進体制はどうするかということがあります。力を入れたいと思いますので回答させていただきます。

○安田委員長

ありがとうございます。小谷さん、よろしいですか。

○小谷委員

ぜひよろしくをお願いします。

○安田委員長

小野澤さん。

○小野澤委員

小谷委員が言われましたが、私もひとづくり、人材づくりというのはやっぱり必要だと思っております、この総合計画にもありますし、創生総合戦略にもありますけれども。やはり我々民間企業でいけば人材育成、これは企業でやらなければいけませんし、ひとづくりというのは本当に地域でやっていかないといけないと思っておりますので、企業でいけば、人材でいけば首都圏から持ってくればいいかもわかりませんが、やはり地域でつくらないといけないと思っておりますし、鳥取市内でも教育委員会のほうは、ちょっと今、御苦労なさっているかもわかりませんが、いろんなことが起こっておりますし。基本計画にあるように、生涯学習の推進であるとか教育の充実、郷土愛の醸成、こういうことで精神的に強いひとづくりをするようなシステムをやっぱり地域でつくっていかないといけないのかなと思っておりますので、その辺のひとづくり、教育委員会・市ばかり頼るので

なくて、父兄もその辺は力を入れていかないといけないと思っていますし、ひとづくりのところをやはり力を入れていっていただきたいなと思っています。

○安田委員長

人間、ひとづくりが一番大事ですよということで。出産・子育てが出ていますし、新しいにぎわい、地域、安全・安心、まちづくり、順番としてはもうこれでよろしいですよ。一番最初にいわゆるひとづくりというか、そういう項目を上げさせていただいている。これを二重にするとかいうようなことも、もうこのままでいいのかなと思っていますが。室長、どうですか、よろしいですか。

○事務局（塩谷創生戦略室長）

はい。

○安田委員長

それでは岡本さん、お願いできますでしょうか。

○岡本委員

私のほうからは、私の意見もいろいろ反映していただきまして、本当にありがとうございます。

私がお伺いしたいのは、この創生総合戦略の策定には参画させていただきました。この委員会条例でも2年間の任期の中で諸計画、また諸企画の実施状況について調査を行えと、委員会の役割としてあるわけです。一番私が心配しますのは、計画をつくりました、その進捗状況はどうであるのか、それを評価・点検して見直しをかけていく、あるいは次の新たな計画の中に盛り込んでいくということが一番大切なのかなと思います。委員会として計画はつくりました。あとは事務局のほうでしっかり評価・点検しながら見直しをかけてくださいというだけでいいのか悪いのか、その辺のところはちょっと気になるところでございます。

評価・点検して市民の方に周知をするということは、再度確認をするということと周知をすることにもつながってくると。一旦つくっただけで終わるのではなく、しっかり評価も点検もしておりますよ、それに基づいて見直しも図っていきますよということが大切かなと。特に総合計画等につきましては10年間の計画で、基本計画は5年間ですから基本計画を策定するに当たって再度見直し等は図られていくのだろうと思いますけれども、その頻度、あるいは評価・点検のあり方、こういったものはどのようにお考えなのか、ちょっとお聞かせいただきたいと思います。

○安田委員長

いわゆるチェック体制というのでしょうか。最後のページ13あたりにP D C Aサイクル、室長がおっしゃったのですが、順次という言葉遣いになっておりますが。

○事務局（塩谷創生戦略室長）

総合戦略の13ページのところにP D C Aサイクルの図が書いてありますが、先ほども検証時期という御説明をさせていただきましたが、その下のほうに検証機関ということで、鳥取市総合企画委員会ということで記入させていただいております。来年度、総合企画委員会がまた開かれると思いますが、その中での検証をしていくということになると思います。

○安田委員長

必要に応じてという解釈であります。岡本さん、どうですか、よろしいですか。

○岡本委員

結構です、何らかの形でやってもらえたら。

○安田委員長

ちゃんと文章に載っておりますので、よろしくお願いします。では、上山さん。

○上山委員

商工会議所のほうからの提案を盛り込んだというお話がありましたが、実は私、商工会議所のほうでもメンバーにならせていただいて提案をつくるのに仲間に入れていただきました。先ほど説明の中で、総合戦略のここに盛り込みましたというお話を聞いて、商工会議所でみんなで提言を出し合っていたときはすごくわくわくして楽しかったのです。これまでにないぐらい出席率がいいということで皆様驚くような会議で、本当にこんなことがあったらいいよね、そしたら次はこうなるよねという、何か夢を描きながらそういう提言をつくってきたのですが、これに盛り込まれると、何かごめんなさい、急にトーンダウンした気分でございます、実は。

もちろん文字にしてしまうとそうですし、ここの政策で行きますと言いながら、私たちが思っている未来への思いというものがなかなか文字には表れない。こういう施策も鳥取市全体で計画をされたり構想されたりということで本当に大変だったと思いますし、また、これから実施計画等も出てきますし。実施する段階では皆さんが思われていたこと、そして私たちが思っていることが反映されるような取り組みであってほしいと思います。計画があるから、予算をとったからといって淡々と実施していただくのではなくて、何か因幡

人は煮えたら食わいやというところもあったりして、盛り上がりには欠けるということもありますが、それは地域であったり行政であったりどこでもいいのですが、のぼせる部分も必要だなと思っていて。ぜひこの総合計画、そして総合戦略が、心がある、そういうものになってほしいなと強く思っています。意見ではありません、私の思いです。

○安田委員長

ありがとうございます。私も組織のうちでございまして、大変複雑でございますけれども。確かに総合戦略の委員会は毎週水曜日にやっておられて、本当にけんけんがくがくと12項目にわたってでき上がりました。本当はもっともっとあったのですが、かなり集約して提言書としてまとめた都合でございます。それを実は市役所にも、市長宛てに直接手渡しをさせていただいて、これは私たちの、一般市民の感覚から申し上げますと、大変対応を早くしていただいたな。私は商工会議所に長年在籍しておりますけれども、市に提言を申し上げる、県に申し上げる、なかなかナシのつぶてというのでしょうか、そういうのが過去からずっと現在に近い状態まであったようでありまして。今回は本当に迅速に提言書に対する回答をいただいたことに対して、市のスタンスがすごく変わったなと思うわけでございます。そのあたりの御苦労も、上山委員におかれましては少し考えていただけたらな、両方の立場でございますので。本当によくやっていただいたなというのが私の実感でございます。

おっしゃるように、それをそのままいろんな形でもちろん実施をしていただくわけですから。そのチェックはもちろん私たちがさせていただくということでございますので、それも踏まえてということで御了解を願えたらと思っております。よろしいでしょうか。

茶谷さん、よろしくお願ひします。

○茶谷委員

私は、まちづくりという観点から私の思っていることを述べさせていただきたいと思ひます。

私は建設業に従事しております、よく宅地造成の工事もかかわることがあるのですが、前々から不思議に思っているのが、人口減少をしているのに次々と宅地造成されるという流れが、県外の方が鳥取に住まれるということでしたら非常に喜ばしいことだと思うのですが、多分、先ほどから言われている中山間地域の方々の子供さんが結婚されて新たにそこに新居を設けるといふときのほうが多いのかなと思ひます。この流れを断ち切るといったらおかしいのですが、ハウスメーカーは病院が近いとかスーパーが近い、小学校が近い

というところを売りにして、お客様をそこに呼び込むことをしておりますので、逆に中山間地域が今の状態を保つためにも、例えばその同じ敷地内に建てかえたときに補助をたくさん出すとか、そんなふうには何かしないとどんどん流出していくのではないかなど。この流れをちょっと変えないと今後、中山間地域がますます市街地のほうに人口が流れていく。何か止められないのかなと思います。

○安田委員長

この問題はいかがでしょう。室長、お願いできますか。

○事務局（塩谷創生戦略室長）

人口が減少しているのに宅地造成が進んでいるということは、中山間地から若い人が世帯を分離して家を建てているのではないかということで、それを食いとめるために中山間地のほうの敷地内で建てかえたら補助をするといった施策はどうだということだと思います。

先ほどからありますように、中山間地の振興というのは力を入れているところでございますので、目に見えてどういった施策ができるかというのは、個々のことは考えてはいきますけれども、市全体見ながらといいますか、中心市街地には中心市街地の問題がありますし、中山間地には中山間地の問題がありますので、いろいろ考えながらやっていきたいと思えます。

○茶谷委員

この流れを止めないと、多分この計画は確実にできないと思えますので。難しい問題だとは思いますが、よろしくをお願いします。

○安田委員長

わかりました。それでは塚田さん、お願いできます。

○塚田委員

一番やっぱり気になったのは協働のまちづくりのところ、これから人口も減っていきますし、職員さんも減らしていかれると思えますし、その中で自分たちは何ができるかということを意識して、協働という言葉を知っている人が何人いるか。それは市民でもそうですし、職員さんでもそうです。下手をすると行政の下請になるから気をつけろと言われてたことがあったりして。行政ではここまでしかできないけれども、そこから先のところを市民が直接やっていくということ、もっと協働のまちづくりの推進についてみんなが正しく理解をするというか、それはすごく大事なのではないかなと思っています。

この総合計画と戦略との線が引っ張ってありますよね。この線は雇用の創造、環境の充実、農林水産業の振興、それから協働のまちづくりの推進、ふるさと・いなか回帰の促進のところは2本ずつ線が出ているのですね。というところは、本当は全部のところがつながっていき、人材育成は1つの分野ではなくて全部に通じていくと思うのですが、やっぱり言葉をきちっと理解をして自分たちが何をしていくかということ、改めて委員であったり、それからそれを市民にどう伝えるか、行政マンはそれをどう理解して市民とかかわっていくかということをもう一度きちっと考えていくことが大事ではないかなと。そこが理解できたらいろんなことがすごく進んでいくのではないかと感じました。

○安田委員長

ありがとうございます。私たちに対する戒めとして承りました。

これに対してコメントはいかがでしょう、どうぞ。

○田中企画推進部長

平成20年から協働のまちづくり元年とあって、今、言われた御意見はまさにそうだと思います。鳥取市も自治基本条例の策定をしまして、また、協働のまちづくりのハンドブックというものも策定をして、全地域にまちづくり協議会もできております。ここをもう一度、次のフェーズとといいますか、段階で、個々の市民の皆さんがそういったものを把握できるようなことを施策としてやっていく必要があるのかなということ。

先ほど上山さんが防災のところでおっしゃいましたけれども、やっぱり自助・共助・公助というところが段階が出てきますから、そういったことも踏まえた上で、この総合計画にどういうふう位置づけできるかというのはまた考えていきたいと思っております。

○塚田委員

まちづくり協議会ですが、やっぱり私たちのような年齢で女性でということと本当に関係のない世界というか、町内とか地区の役付の方が集まって、とりあえず形をつくっているみたいなのところも、どことは言いませんがやっぱりありまして。そこら辺の本当に生活者の生の実態でまちづくりができたらいいなというのはいつも感じています。

特に回覧板で、市長さんとか課長さんが来られて懇談会をしますというのに出ようものなら、やっぱりまだその辺の男女共同参画は全然進んでなくて、特にうちの班なんかは婦人が班長をするのはいかなものかみたいな感じの条項があって。特に一人世帯、一人で住んでいらっしゃる元気な女性の方が班長をしてはいけないみたいなことを書いてあったりして、その辺のところはまだまだだなという、まちづくりについては感じております。

○安田委員長

けしからないね、そんな団体がいらっしやると。それでは松本さん、よろしいでしょうか。

○松本（壽）委員

8月の終わりから9月の初めにかけて、子供の自殺ということで新学期、夏休み終わって始まる時にという、結構、NHKとかさまざまなキャンペーンみたいな形で子供たちの心の揺れみたいなどころであったと思うのですけれども、鳥取は無事に終わってよかったなと思ったのですが、原因はわからないけれどもということでしたが、先日、鳥取市でも中学生が亡くなったということがあったりしまして。本当にいじめ問題なのか自殺なのかということわからないにしても、校内で子供が死ぬということは大変大きな問題で。そういうことを受けとめますと、やはりひとづくり、先ほど言われましたけれども心の強い子供たちを育てていくことがとても大事なかなと。これは家庭の問題、親子の結びつきの問題なのか、学校・クラスの問題なのか、さまざまな問題はあろうかとは思いますが、子供たちが毎日、日々楽しいとか元気にやれるというか、そういう目標を持って生活できる環境づくりというものが求められるのではないかなと思います。安心して出産・子育て、保育園・幼稚園、出産に関しても、もう手厚い制度等整っていく中で、やはり子供たちの心というものも強くたくましくというところを大事にしたいかなと思います。

それで教育の充実とあるのですが、さっきのとはまた別ですけれども、特別支援教育の充実。今、学級の中に支援員が入ったりとか専門的なカンファレンスが開かれたりとか、いろんな形で支援がなされておりますし、随分手厚くあります。しかし不登校の子供とか心に悩みを持った子供たちもたくさんいますので、家庭環境が学校に不適應を起こす子供たちも今後ふえていくだろうと思います。ですので、10年後、20年後の鳥取市の行政の中でも、支援の充実という部分もとても大事ではないかなと思っております。

それから、校区制の問題もいろいろあると思うのですが、中山間地、人口が動けば本当に産業も、空き家問題とか田んぼの問題、畑の問題もいろいろあろうかと思いますが、まず、子供が市外の学校に動くだけで随分の流出になるわけで、校区問題も鳥取市は小・中一貫校等をつくるということで今、対応されていますけれども、10年後、20年後までそれがやっていけるのかどうかとか、大きな校区編成が要るのではないかなと思ったり。さまざまな問題があろうかとは思いますが、一番にやはりひとづくりであるということで、これは子供だけではなく教職員もやはり研修しなければいけないということもあり

ますし、それを取り巻く地域もしっかりと支えていただけるような環境づくりというものをお願いしたいなと思います。

○安田委員長

思い入れという形で、松本さんはおっしゃいましたので。多分、教育委員会の方々は御理解なさっていると思います。それでは森原さん、お願いします。

○森原委員

総合計画はどうしても総花的になりがちで、それは仕方ないと思いますけれども、やはり第10次、これから10年間、鳥取市が目指すべき方向性の特徴づけとといいますか、性格づけとといいますか、何かそういったキャッチフレーズ的なものが必要ではないかなと。

「すごい！鳥取市」というキャッチフレーズはあるのですけれども、市民にアピールする意味でも肝となる施策を前面に出したほうがいいのではないかと思います。

基本構想、基本計画を見ますと、先ほどもありました協働のまちづくり、これが全ての基本ではないかなと。棚田さんも言われましたけれども、市民参加の地域づくり、まちづくりが鳥取市のこれから進むべき方向性ではないかなと。そういったものを前面に出した総合計画にすべきではないかなと。将来像とかまちづくりの理念はあるのですが、これはこれとして、やはり一言で、鳥取市はここを目指すべきだ、ここを目指すのだという施策を前面に出してもらいたいと思います。

いろいろ御意見もあろうかと思います。例えば総合戦略にも関係する子育て支援、人口減社会に歯どめをかけるために子育てしやすい鳥取市とか、先ほどありました安全・安心なまちで、幸いにも鳥取市は少ない大変安全な地域ですので安全・安心な鳥取市とか、何かそういうアピールするフレーズで、しかもそれに力を入れるという方向性がいいのではないかなと個人的に思っています。

○安田委員長

室長、いかがですか。

○事務局（塩谷政策創生戦略室長）

参考にさせていただきます。

○安田委員長

安全・安心、もうキャッチフレーズですよ。僕らも県外に出たら、いつもそれを言っています、企業誘致も含めてね。安全・安心ですよ、何せきれいですよと、水が、もう自

然が豊かですよ。

それでは最後になりましたが、よろしくお願いします。

○山根委員

人口減少をとめるために定住・移住、積極的に推進することとても大切なことですが、今、鳥取市に住んでいる私たちがこうしてくださいではなくて、先ほども小野澤さんが言われたように、私たち一人一人が積極的に地域に出かけて行って、地域みんながこうしたらよくなるのではないかと、どうしたらよくなるのだろうという思いを皆が持つような地域にしていくことが人口減少を止めることではないかなとずっと考えておりました。みんなにお願いするのではなくて、自らが鳥取市はこんなにいいところなのだよと自分自身が思わないと人にも言えないと思うので、自分自身が積極的に言えるような人になれたらなとずっと思っておりました。

○安田委員長

ありがとうございます。そういう意識を鳥取市民が持ったらもっともって立派な、立派なとかすばらしいまちになろうかと思えます。多分、市長もお喜びになっておられると思えます。

それでは御意見をいただきましたので、これを今度は庁内に持ち帰りましていろいろ検討をしていただきまして、次回、報告という形にして、市民政策コメントを実施していくということでございますので、よろしくお願いしたいと思います。

それでは最後になりますけれども、10次総の計画等の策定スケジュール表が出ておりますので、資料ナンバー4をごらんいただきたいと思えます。御説明をよろしくお願い致します。

○事務局説明（塩谷創生戦略室長）

資料4に基づき説明（略）

○安田委員長

いかがでしょうか、この流れでよろしいでしょうか。

続きまして、その他に移らせていただきます。事務局、よろしくお願いします。

（2）その他

○事務局（塩谷創生戦略室長）

次回の開催日の調整をさせていただきます。10月30日の金曜日の午後2時から4時

というところで提案をさせていただきます。

○安田委員長

10月30日でございますので、万障お繰り合わせの上、御出席をよろしくお願ひしたいと思ひます。時間は2時から4時でございます。

よろしいでしょうか。もうどうしてもだめだといわれる方。今のところ出席いただけるということでございますので、これを見て決定をさせていただくということにさせていただきます。

10 閉 会

○安田委員長

まだ4時になっておりませんが、何かございましたら。

なければ、これをもちまして第4回鳥取市総合企画委員会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。失礼します。